

授業科目	* 診療関連技術論演習			単位	2			
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11205J		
開講年次	2	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-1 DP4-2			
担当教員	隅田 由加里、梶原 江美、金山 正子、長崎 恵美子、中島 紀江							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>人間は疾病の発症や障害によって様々な診療(検査・処置・治療)を受けなくてはならず、これは患者の健康の回復・増進のために必須な医療の過程である。この診療における看護師の役割は、医師の指示に基づき、薬剤の投与や採血などの診療の補助業務を正確に実施する、そして実施だけで終わらず、観察やアセスメントを通じて提供した診療関連の技術が安全に遂行されているか、患者に異変はないかなど、実施後の異常の早期発見に努めるという重要な役割を担う。よって看護職者は、診療の補助役割として行う診療関連技術が安全に提供できるよう、科学的根拠と医療安全の視点を踏まえ、必要な基礎的知識を深め正確な技術習得に努めなければならない。</p> <p>1年次の生活援助技術論演習では、人間の営みに基づいた食事摂取の援助や自然な排泄の援助を学修したが、本授業においては、疾病や治療の影響で経口摂取が困難な患者や自然な排泄が困難な患者への侵襲を伴う看護技術と、診療に関連する技術(「呼吸を整える技術」「体温管理・保温の技術」「創傷管理技術」「与薬・輸血の技術」「検査に伴う看護技術」)を講義と演習によって学修する。さらに診療に関連する技術は、患者の体内にカテーテル類を挿入する、薬剤等を投与する、創傷に触れるなどの行為が存在するため、看護師の知識・技術の習得が患者の感染リスクに影響を与えるとも言える。よってこの科目で学ぶ全ての技術に共通することの1つが「清潔・不潔の認識」であると理解し、まずは感染源・感染経路への対策の学修から開始する。</p> <p>担当者は、実務家教員として地域における中核的基幹病院で多種多様な診療関連技術を、様々な状況にある患者に提供してきた経験をもつ。診療関連技術は医療行為の一部であり、医療事故にもつながる侵襲性の高い看護技術であることを念頭におき、まずは講義によって、基礎的知識(目的、根拠、留意点等)を深める。その後、臨床現場で実際に使用されている器機等を活用し、「実践する」「振り返る」を通して診療関連技術の理解を深め、課題を通して観察・アセスメントの視点を習熟させていく。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 根拠に基づいた安全な診療関連技術を実践するために必要な基礎知識を修得することができる。 2. 必要な診療関連技術の実施前後の患者の反応を、ヘルスアセスメント技術演習の学びと観察の視点を活用して論理的に思考・判断できる。 3. 診療関連技術を安全に実施する看護実践者としての責任を自覚し、受講と演習を行うにあたってのルールを遵守した上で、チーム活動に積極的に取り組むことができる。 4. チームメンバー全員が根拠に基づく安全な診療関連技術を実践できるよう、連携・協働する姿勢を身につけている。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	55	5	5	0	5	30	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	50	5					55	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	5		5		0		10	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)			0			20	20	
態度(DP4-2)					5	10	15	
態度 (DP4-3)								

技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>1. 根拠に基づいた安全な診療関連技術を実践するために必要な基礎知識(意義・目的、適応、禁忌、留意点、方法、観察項目)を論理的に記述することができる。</p> <p>2. 提示された患者情報をもとに、フィジカルアセスメント技術演習の学びと観察の視点を活用し、診療関連技術を受ける前後の患者の状態を、科学的根拠に基づいて論理的に思考し、その判断に至った根拠とともに記述できる。</p> <p>3. 診療関連技術を安全に実践する看護実践者としての責任を自覚し、受講と演習を行うにあたってのルールを遵守した上で、リーダーシップを図りチーム活動に積極的に取り組むことができる。</p> <p>4. チームメンバー全員が根拠に基づく安全な診療関連技術を実践できるよう、連携・協働する姿勢を身につけ積極的に実践できる。</p>				<p>1. 根拠に基づいた安全な診療関連技術を実践するために必要な基礎知識(意義・目的、適応、禁忌、留意点、方法、観察項目)を説明できる。</p> <p>2. 提示された患者情報をもとに、フィジカルアセスメント技術演習の学びと観察の視点を活用し、診療関連技術を受ける前後の患者の状態を説明できる。</p> <p>3. 診療関連技術を安全に実践する看護実践者としての責任を自覚し、受講と演習を行うにあたってのルールを遵守した上で、チーム活動に協力できる。</p> <p>4. チームメンバー全員が根拠に基づく安全な診療関連技術を実践できるよう、連携・協働する姿勢を身につけることができる。</p>				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)				
1	<p>授業ガイダンス (講義: 隅田由加里)</p> <p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療関連技術論演習の概要 ・授業展開方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は感染予防対策を徹底して対面授業形式で実施する。 ・講義は、一定の間隔が確保できるよう、指定された席で受講する。 ・シラバスを用いて科目についてのオリエンテーションを実施する。 ・講義に必要な資料は当日配布する。 ・授業はスライドと動画を活用する。 	<p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に取り組む 2. 該当する看護形態機能学の復習を行う。 3. ポートフォリオを作成しまとめる 4. 提示された動画を視聴し看護技術のイメージをもつ <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本日の講義に該当する部分の復習を行う。 3. 演習記録をまとめる。 	【予習・復習】 60分				
2	<p>体温管理・保温の技術 (講義/グループワーク: 隅田由加里・基礎看護学教員)</p> <p>講義/グループワーク内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体温管理・保温の基礎知識 ・冷電法・温電法 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、一定の間隔が確保できるよう、指定された席で受講する。 ・講義に必要な資料は当日配布する。 ・授業はスライドと動画を活用する。 	上記参照	上記参照				
3	<p>診療関連技術に必要な感染予防の技術① (講義: 隅田由加里)</p> <p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染源への対策(医療機器の洗浄・消毒・滅菌) ・感染経路への対策(滅菌物の取り扱い、無菌操作) 	「体温管理・保温の技術」を参照	上記参照	上記参照				

	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止に留意した使用済み器具の取扱い ・感染性廃棄物の取扱い 			
4	<p>創傷管理技術① (講義/演習: 隅田由加里)</p> <p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創傷管理の基礎知識 ・褥瘡処置と評価 ・包帯法とドレッシング法 <p>演習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻軸包帯による包帯法 ・フィルムドレッシング材の貼用と除去 	<p>・講義は、一定の間隔が確保できるよう、指定された席で受講する。</p> <p>・講義に必要な資料は当日配布する。</p> <p>・授業はスライドと動画を活用する。</p> <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> * 授業期間中は健康管理チェックを継続し、発熱や感染の症状がある場合は事前に報告する * 演習時はマスク・フェイスシールドを装着する。 ・指定されたベッドでチームで演習を行う 	上記参照	上記参照
5	<p>感染予防の技術②/創傷管理技術② (演習: 隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>以下の演習内容を2コマで行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滅菌手袋の着脱 ・滅菌物の取り扱い 	<ul style="list-style-type: none"> * 授業期間中は健康管理チェックを継続し、発熱や感染の症状がある場合は事前に報告する * 演習時はマスク・フェイスシールドを装着する。 ・指定されたベッドでチームで演習を行う 	上記参照	実技試験に向けて隙間時間を有効活用しながらチームメンバーとともに練習を重ねる
6	<p>呼吸を整える技術① (講義: 隅田由加里)</p> <p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸の意義とアセスメント ・呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 ・酸素吸入療法 	「体温管理・保温の技術」を参照	上記参照	【予習・復習】 60分 演習に向けて担当者は隙間時間を活用して技術練習に取り組む
7	<p>呼吸を整える技術② (講義: 隅田由加里)</p> <p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気道分泌物の排出の援助(ネブライザー療法、口腔・鼻腔・気管内吸引、体位ドレナージ法、 	「体温管理・保温の技術」を参照	上記参照	上記同様
8	<p>呼吸を整える技術③ (演習: 隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>演習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素療法 	「感染予防の技術②/創傷管理技術②」を参照	上記参照	【予習・復習】 60分

9	<p>検査に伴う看護技術① (講義: 隅田由加里) 講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査に伴う看護の役割 ・血液検査と静脈血採血法 	「体温管理・保温の技術」を参照	上記参照	【予習・復習】 60分 演習に向けて担当者は隙間時間を活用して技術練習に取り組む
10	<p>非経口摂食的栄養摂取の援助① (講義: 隅田由加里) 講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経腸栄養法 ・静脈栄養法 	「体温管理・保温の技術」を参照	上記参照	【予習・復習】 60分 演習に向けて担当者は隙間時間を活用して技術練習に取り組む
11	<p>排泄に障害がある患者の援助① (講義: 隅田由加里) 講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時的導尿 ・持続的導尿(留置カテーテル法) ・浣腸 ・摘便 	「体温管理・保温の技術」を参照	上記参照	【予習・復習】 60分
12	<p>与薬の技術① (講義: 隅田由加里)</p> <p>以下の講義内容を2コマで行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与薬に関する基礎技術 ・経口与薬法 ・外用薬の皮膚・粘膜の適応 ・注射法 	「体温管理・保温の技術」を参照	上記参照	【予習・復習】 60分 演習に向けて担当者は隙間時間を活用して技術練習に取り組む
13	<p>実技試験 試験内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滅菌操作 <p>* 試験に関する詳細は授業内で説明する</p>	* 事前に説明した試験の流れに則り、科目履修者全員を対象に実義試験を実施する。	上記参照	振り返り 30分
14	<p>排泄に障害がある患者の援助② (演習: 隅田由加里、看護学科教員) 演習内容(デモンストレーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の持続的導尿 ・浣腸 	「感染予防の技術②/創傷管理技術②」を参照	上記参照	【予習・復習】 60分
15	<p>呼吸を整える技術④ (演習: 隅田由加里、看護学科教員) 以下の演習内容を2コマで行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔・鼻腔吸引法 	「感染予防の技術②/創傷管理技術②」を参照	上記参照	上記参照

16	検査に伴う看護技術② (演習: 隅田由加里、看護学科教員) 以下の演習内容を2コマで行う ・静脈血採血	「感染予防の技術 ②/創傷管理技術 ②」を参照	上記参照	上記参 照
17	非経口摂的栄養摂取の援助② (演習: 隅田由加里、看護学科教員) 以下の演習内容を2コマで行う ・経鼻経管栄養法(カテーテル挿入と栄養剤の投与)	「感染予防の技術 ②/創傷管理技術 ②」を参照	上記参照	上記参 照
18	排泄に障害がある患者の援助③ (演習: 隅田由加里、看護学科教員) 以下の演習内容を2コマで行う ・女性の一時的導尿	「感染予防の技術 ②/創傷管理技術 ②」を参照	上記参照	上記参 照
19	与薬の技術② (演習: 隅田由加里、看護学科教員) 以下の演習内容を2コマで行う ・輸液作成と滴下調整	「感染予防の技術 ②/創傷管理技術 ②」を参照	上記参照	上記参 照
20	与薬の技術③ (演習: 隅田由加里、看護学科教員) 以下の演習内容を2コマで行う ・注射作成と筋肉内注射(三角筋)	「感染予防の技術 ②/創傷管理技術 ②」を参照	上記参照	上記参 照
21	輸血の技術 (講義: 隅田由加里) 講義内容 ・輸血療法の基礎知識 ・輸血療法の方法	「体温管理・保温の 技術」を参照	上記参照	上記参 照
22	診療関連技術論演習での学びの振り返り (チームでのワーク: 隅田由加里、看護学科助教員) 演習内容 ・学びの発表と振り返り	* 診療関連技術論 演習を通しての学 びを提示された視 点からチームで思 考し、その学びを 発表するとともに、 今後の課題を思考 する。 * 各チーム内で役 割分担を行い、指 定された時間内に 学びを発表でき るようメンバー全 員で協力する。	1. 残された課題に取り組む 2. ポートフォリオを完成させる 3. 定期試験に向けて復習する	
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	この単元は、医師の代行役割である診療の補助に該当する科目であり、患者の体内に針やカテーテルを挿入し、さらに薬物や酸素を投与するなど侵襲を伴う看護技術となります。これらを安全に実践するためには、まずは「看護形態機能学」の知識が必須となりますので、1年次に学修した既習の知識の復習を必ず行ってください。また疾病学各論、薬理学、看護のための臨床検査などの科目と関連させながら学修を深めてください。さらに医療安全の知識も重要となりますので、各診療関連技術に関する事故防止対策や感染防止対策の学びを深めながら、どこが何が清潔で不潔なのかを考えることを継続していきましょう。そして日頃から医療に関するニュースやトピックスには関心をもち続け読書し、医療や看護の課題理解を深めていきましょう。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 基礎看護学②～④ 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、臨床看護総論(メジカルフレンド社) ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術(メディカ出版) ・系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学(医学書院) ・深井喜代子編著:基礎看護技術ビジュアルブック 手順と根拠がよくわかる(照林社) ・深井喜代子監修:ケア技術のエビデンス(1)(2)実践へのフィードバックで活かす(へるす出版) ・藤本真記子ら監修:看護技術がみえる① 基礎看護技術(メディックメディア) ・佐藤久美ら監修:看護技術がみえる② 臨床看護技術(メディックメディア) ・山口瑞穂子編著:看護技術 講義・演習ノート 第2版 下巻 診療に伴う看護技術編(サイオ出版) ・任和子ら編集:根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版(医学書院) ・公益財団法人日本医療機能評価機構 https://www.med-safe.jp ・PMDA 独立行政法人 医薬品医療機器総合情報 https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/medical-safety-info
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>医療は日々進歩し新しい治療法が開発されています。そのような中、臨床現場では看護師は医師の代行者として様々な診療に関連する看護技術を提供しています。しかし皆さんのような初学者の方が、初めて診療関連技術を演習するのはとても難しく、また怖さを感じると思います。このためどうしても診療関連技術論演習の学修を進めるにあたっては、技術手順の習得に意識が集中しがちです。しかし診療関連技術を提供するにあたって最も大切なことは、患者の安全を守ることです。この患者の安全を死守するためには、手順だけでなく、「なぜそれを行うのか」という目的や根拠、理由をしっかりと理解することが必要です。なぜならこのような知識が医療事故や感染などのリスクから患者を、そして自分自身を守ってくれるからです。まずは「どうしてこれを行うの?」「なぜ、この方法なの?」等の疑問を常にもち、その疑問を解決することを学修とし、学びを深めていってください。</p> <p>また、医療に関するテレビ番組などは数多く作成されています。「イメージできない」「テキストに記載されていることがよく理解できない」「どのように患者に説明したらいいのか」などの疑問や困難を感じてしまう場合は、まずは質が確保されたドキュメンタリー等を活用してイメージを掴むことも診療関連技術の理解を深めることにつながっていくと思いますので興味をもって授業に参加してください。</p>
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	<p>本授業の課題達成度は、筆記試験(55%)、小テスト(5%)、レポート(5%)、レポート外の提出物(学習ポートフォリオ・提出物など:5%)、その他に位置づけた実技試験(10%)と演習への取り組み(20%)により総合的に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 【知識・理解】の看護学科 DP1-2)「看護実践に必要な基本的な知識を修得している。」は、筆記試験(50%)と小テスト(5%)から総合的に評価します。 2. 【思考・判断】の看護学科 DP2-1)「健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる」は、筆記試験(5%)と レポート(5%)の内容から評価します。 3. 【態度】の看護学科 DP4-1)「看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる」は、その他に位置づけた演習への取り組み(20%)から評価します。 4. 【態度】DP4-2)「根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている」は、レポート外の提出物(5%)とその他に位置づけた実技試験(10%)から評価します。 <p>課題に対するフィードバック方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ミニテスト、技術課題、演習への取り組みは、授業の最終日に振り返りの時間を1コマ確保しています。その時間を活用して行います。 ② 提出されたポートフォリオはコメントを記載してフィードバックします。